

令和4年度「伝えよう！本の魅力コンテスト」ツイッター部門 受賞作一覧

◆最優秀賞

『まじめな悪魔の辞典』（Syuugoro／著 HK INTERNATIONAL VISION）

「平和とは、戦争と戦争との間の休息のことである。」あなたは思う？ふだん当たり前のように使っている、または決まった使い方をしている多くの言葉達を、まじめな悪魔がこの辞典にまとめた。もちろん、悪魔風に。半分皮肉、半分本気で。普通の悪魔なんて、本なんか書かずに人間を喰ってるのにね。(140)

◆優秀賞

『笑う数学』（日本お笑い数学協会／著 KADOKAWA）

数学なんて将来使わないのに！と思いながら勉強している学生も数多くいることであろう、数学。しかしこの数学の本は少し変わっている。愛の告白を数式でやってみたり、板チョコの定理だったり。まあなんともカオスである。1ページめくるごとに猫の目のように激変する小話が詰まった一冊。(134)

『失はれる物語』（乙一／著 角川書店）

「この情けない肉の塊を殺してほしかった」

事故により右腕以外の感覚が失われた私。それでも、彼女は毎日私の腕でピアノを弾き続けた。彼女を自分から解放するために、私のゆるやかな自殺は始まった。

「おとうさん」

そう最後に書かれた言葉は。(113)

『冬の朝、そっと担任を突き落とす』（白河三兔／著 新潮社）

担任が翼を生やして死んだ理由を生徒達は知っている。(25)

『人魚の眠る家』（東野圭吾／著 幻冬舎）

「脳死」

それは、身体は生きているけど脳が死んでいる状態のこと。

「自分の娘は生きているのか」

両親はそんな葛藤と生きる。

あなたは思うでしょう

「死んでいますか？」

「生きていますか？」（90）

『天翔る』（村山由佳／著 講談社）

天は意地悪、神は残酷。人の心は、もろくて弱い。

だけど、走って、走って、走った先に、ほんのちょっとの希望が見えた。（56）